

*
アトリエにて
*

電子俳句集

アトリエにて

絵と俳句 おじやらいか

2003



俳句は、アトリエで絵を描いている合間に浮かんできて、ノートに書きとめられることが多かったので、この句集のタイトルも、『アトリエにて』というタイトルにすることにしました。

バリ島滞在中に作ったほとんどの俳句は、ここで生まれました。現在は、バリに来た当初よりも、恒常的に絵を描く事が多くなり、アトリエには山のように積まれています。掃除をしたり、絵を探したりすると、下の方から、俳句ノートが出てきては、また俳句のことを思い出すのです。私の句作は、そんな感じで、バリの風のように、吹いては、時々止まったりして、のんびりとしたペースです。

毎日少しづつ描くふうげんびりあ

空も少し見えるちっちゃなアトリエにゐる

窓を開ける 風が通る

一枚一枚が積み重なり山のやふな夢

絵を描いてゐる一人である

ふと手を休めて、エンピツを持ってみる

指先がもう痛い雨の昼下がり

ヌードデッサンの次の日となり、裏に俳句

年末..

大掃除もせずに絵を描いてゐる

コーヒーの一滴がたれる
絵の一部となる

青色のインク壺に水を入れてゐる

文字踊るコピー用紙

字を何度も練習した紙の抽象画

インク薄めながら使う 雨

絵の上で蠅も休んでいる

雨 縫い子となり土産のコースター

下塗りもう虫が貼りついている

重ね塗り、また絵を×にしている画家である

白いカンバスばかり並べてある

昔の絵を白く塗りて花



絵を燃やす、土に帰ってゆく

燻ったままの燃えかすで煙

帰国..

帰りたくない　　まだ描き足りぬ



*
モデルと

セニワテイ

*

私は肖像画家を目指しており、バリ島在住期間には、多くの女性にモデルになって頂きました。

モデルとなって下さったのは、私のホームページの読者様や、村で出会った美女、バリの舞踏を習う皆さんです。

モデルさんの宿に伺っては、絵を描かせて頂きます。皆さまには、無料で協力していただき、大変感謝しております。

また、週に一度、UBUD村で開かれているヌードデッサン会『セニワテイ』にも参加しました。

こちらには、世界中のアーティストが集まり、また、モデルさんもイロイロな国籍の方が協力してくださり、充実した時間となりました。

その中の絵の一部ですが、挿絵として使ってみました。
どうぞ、お楽しみください。

着物を着て

座ってくれている

女が笑む



アトリエ

どんな女の絵にも、
人生が移り住む



花をくるくると回して
座っている



見つめると

目を開いてくれる睫毛

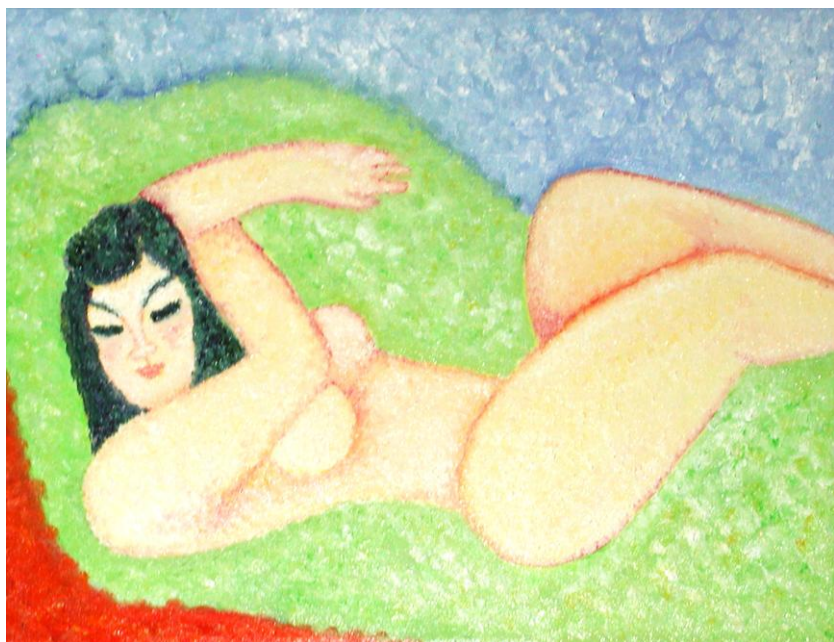


アトリエにて



二人のモデルの
美しさよ

ライトの位置を変えて花を髪に挿してもらふ



アトリエ

扇風機下に集ふ絵描きたち

隣の画家は美しい絵を描く画家で

爆破テロ翌日..

たった三人の画家の前に立つモデル

20030320:

Dayと、

サイン横に書き込んで絵を仕上げる

グループ展の画集は、バス停である

二〇〇二年八月に、セニワテイの女性アーティストグループによる初の個展が開催されたのだが、その名前は、“THE BUS STOPS HERE”であった。

*
花や空
*

やっと咲いてくれたバラを摘んでみる

ミドリバツタ喰らふ花びらは赤

乾季..

葉を折りたたんで耐えている

葉を落として待っている

明日はきつと咲いてくれるヒマワリ

スつと汗が引く木陰のありがたさよ

ふちがむらさきの赤いバラであったよ

雷雲、『ゴ—オ』と連れ立って来る

しみじみと雨が降り 蠅も雨やどり

青い空と雲 蛇が出た

朝露 抱えるほどのバラ摘む手袋

藻の棲家となりぬ40mのホースよ

ブロック塀の上並んだシヤボテンである

アスファルトの上にも熱帯の植物

月夜、
椰子の木
のひそひそ話

シヨボイさつま揚げの膳、満月

長く摘んだバラ青い瓶と決めてゐる

『ブチンッ』『ゴンッ!』マンゴー落ちた

オレンヂの花三つ咲いてくれた

気の向く方へふうげんびりあ

松葉ぼたん小さく向日葵大きく咲いている

赤いバラが枯れてオレンジとなる青い瓶

ゴミ捨てに行き赤い蟻に囲まれてゐる

花ばかり咲かせている

そこいら中がオレンジで

ゆうべの陽炎の羽ばかり掃き出してゐる

水漏れの青い睡蓮の鉢水を足すばかり

また蟻が引つ越してきた土砂降りの午後

雲が椰子の木を通り抜けた

花びらが一枚だけ開いてくれた日本の花

雨がドカンと降り今日も晴れる

さわさわと草のささやき

巨大な葉に囲まれている

蟻だって探している

黄色コスモス手の届かぬ位置に咲く

お日様を包みこむ洗濯物の山

熱帯の太陽で増やすヨーグルト菌

こんなに降っている雨

雨の演奏会皿が足らず

ピカピカに洗われた葉が光る

*
俳
句
*

私が俳句を始めたのは、バリ島に来てからです。

心太俳諧通信というインターネットの俳句の掲示板 (<http://sasa.org>) には、日本（1999年よりも前）からも時々出入りはしていたのですが、俳句を意識して詠むようになったのは、バリに来て、さらに、もう少し何年か後になってからだだったと思います。

確か、2000年の四月頃に、私の銅版画の作品に、俳句を刷り込んでみたのですが、それが、非常にお粗末な句であったのを、みかねた心太さんが、特訓してくださることになったのでした。

私なりに、俳句に問題を感じていたのに、何が何だか、サツパリ解らずにいました。それでも、銅版画に、俳句を、どうしても入れたかったので。

インターネットの掲示板上で、自由律俳句の添削指導をして頂いたのですが、当時の私には難しく、教えていただいたことがゴチャリと頭のなかで混ざったまま、また何ヶ月も中断してしまっただけでした。

その間、山頭火、放哉と、自由律俳句を習字の手本としながら読み進み、他人の作品ではありましたが、WEB句集としてまとめました。

放哉や山頭火の俳句を俳画にした一連の句集作りでは、私の俳句に対す

る理解が、一気に進み、謎が解けてきたと感じています。

また、心太俳諧通信では、『花寄せ』がスタートし、お粗末な句ながら参加させて頂きました。『花寄せ』は、一年間続き、その間に、俳句ノートも作り、私は、いくつもの俳句を作るようになっていったのです。

俳句の楽しさというのは、イロイロあります。

誰でもが、気軽に始められる。これがスゴイです。

初心者でも、中級者でも、上級者でも、それぞれ楽しめるというのも素晴らしい所です。

自分が詠むだけでなく、人の俳句に触れたり、批評したりすることで、お友達も増えます。

人の句を読むことは、自分の句を反省する、いいチャンスにもなっています。

そうして、一番素晴らしいのは、句作には、ほとんどお金がかからないという部分かなと思います。

世の中にはイロイロな趣味がありますけれども、俳句は、立ち読みの次くらいに、お金がかからない趣味だと思っています。

ああ、中には、昔の俳人の高い本を集めたりして、『俳句は金がかかる』などと言っている方がいますけど、それは、収集活動であって句作活動ではありません。

俳句の事、ちょっと気になっている方。これを読んだ方の中には、アタシ程度の俳句なら、なんか、カンタンに作れそうな気がしていますよね。

私の作っている、自由律の俳句というのは、季語や文字数などの制限がないので、とても自由に俳句を作る事が可能です。

スッと浮かんできた言葉を、紙に書き留めてみると、もう、それは俳句だったりします。

俳句というからには、ちょっとしたコツがあるんですけど、細かい事は気にせず、気軽に作ってみる事から始めてみませんか？

鉢の子とからたちの花描けずにいる

インターネットでつながる俳句どうし

海と線で繋がっている明石サーバー

ちつと見る。これは俳句なのか？

与謝野晶子の短歌漢字が読めずにゐる

俳句ノートが出てきた　また詠んでゐる

猫へ、俳句ノート上爪磨ぎ昼寝厳禁

ピカソも山頭火もアタシも裸足



アートワーク

山頭火の裏に放哉を描いてゐる

習字のお手本は百年昔の俳句たち

絵も句も燃してばかりゐる

あきらめずにまた一句

推敲、朝もやの中



アトリエ

細かい事、気にせず詠んでゐる朝

次々と湧いてくる蟻どもと俳句

紙に印刷しない『零と壺』の句集である



アトリエ

この俳句に嘘

* シンガポール *

二〇〇一年、シンガポールに旅行。オーチャード通りのマンダリンホテルに宿泊。高層から都会の景色を眺めて、浮かんできた俳句を書き留めました。

書き留めた俳句の多くは、どこかに紛失してしまい、大捜査の上、やっといくつかの俳句を当時のスケッチブックの中からみつけることができました。折角なので、この句集に追加する事にします。

雲の隙間からちよつと覗きに来た

叶わぬ夢新しい夢になる



よき天気になりて連なれる雲

夜になりゆくビル灯ぽつりぽつり

二十八階でハムとワインと月

コンクリの中生かされる緑ばかりである

教会にも、モスクにも雨

*
お
わ
り
に
*

この句集を有料にするか、無料にするかというのは、最後まで悩みました。

何で悩んだのかといえば、本を【有料】にしないと、『図書コード』を付加しても、『書籍データベース』に掲載することができない」という事実が、新たに判明したからです。

書籍データベースに掲載されないと、折角『図書コード』をつけたのに、検索などで、外から流れてくる方に、この本の存在を知ってもらおうことができないうのです。

かといって、有料にするほどの俳句でもないしなあ……。

本を縦にするか、横にするかと同じくらい、アタシは悩まなくてはなりませんでした。

無料にすれば、大量に人が集まってきた、ついで、【リンク】を押してしまい、ダウンロードしてしまうことは過去の実績から解っています。

まあ、電子本の宣伝には、沢山の方に触れてもらう方がいいかもなあ。ということ、無料で配布にすることに決定！

多くの俳句ファンの方が、句集を出すという夢を実現できますよう、お祈り申し上げます。

このような俳句集が、あつという間に作れる、
『ワードの基本フォーマット』は、【電子本
『自前出版』してみませんか?】を購入する
と、おまけでついてきます。

無職無収入なんで、こっちは買って欲しいで
す。これを使うと、(ワードとアクロバット
があれば) 俳句を入れて、改ページを挿入

してゆくだけで、このような俳句集が作れて
しまいます。

自分で作る、自分だけの、思いのこもった『俳
句集作り』、ぜひ、チャレンジしてみてください
さい。

WEBとは違って、本の形になると、また、
別な嬉しさが湧いてきます。ホントです。

それでは、読んでくださって、ありがとうございます

ございました。

二〇〇三年 四月

絵と俳句 おじやら
りか

* 御 礼 *

私が俳句を続けてこられたのは、インターネットで、私に俳句を教えてくださいました、笹心太さんと、心太俳諧通信 (<http://sasa.org>) に集う、俳句のお友達のお陰です。

趣味とはいえ、一人では、俳句の謎が多すぎて、今まで、続けてくることはできなかつたと感じています。

私の俳句は、ボチボチと作っている程度で、なかなか上達もしませんが、今では下手なりにも、作る楽しさというのが沸いてきます。

心太俳諧通信では、この他に、連句や、句を投句して、参加者が批評しあう『吹き寄せ』など、俳句を使った、イロイロな遊び方も教えて頂いています。

俳句のもう一つの素晴らしさは、一人でも作れるというところでしょう。無理せず、ボチボチと、自分のペースで作れるのです。

世の中にはイロイロな趣味がありますけれど、一人で時間が潰せる趣味というのは、結構少ないように思います。私が絵を始めたのも、一人きりで時間を過ごすからという部分が強いです。

絵は、一人だけで完成させることがほとんど

ですが、俳句の場合、一人でも、大勢集っても、楽しい時間を過ごせる、素晴らしい文化だと感じています。

このような楽しい俳句や、遊び方を教えていただいで、また、いつも、一緒に遊んでくださって、笹さん、お友達のみなさん、ありがとうございます。

感謝します。

俳句が楽しくなつて、私も、もつと他の多くの方が、俳句に気軽に親しんでくださるとい
いと、心から思うようになりました。

この電子俳句集『アトリエにて』を読んだ方が、気軽に、『俳句を始めてみよう』と思つてくださると、嬉しいです。

私も、俳句を始めたばかりですけど、少しずつ、また、自分の俳句を作ろうと思つています。

おじやら・ねっとの本



電子俳句集『アトリエにて』 発行 二〇〇三年四月

絵と文 おじやら りか

発行者 おじやら りか

発行所 あとりえ おじやら

〒110-0002 東京都足立区千住三・五十八

[E-Mail:rica@ojara.net](mailto:rica@ojara.net)

<http://www.ojara.net>

ISBN4-901941-11-9

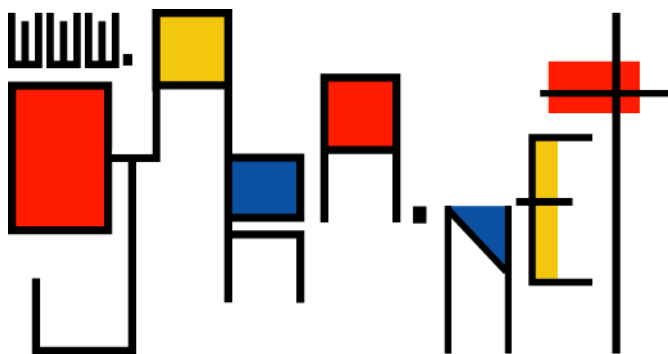
C-0892¥0000E

CD-ROM プラス Pt. Birubintang

◎ おじやら りか

お気づきの個所がありましたら、二面倒様でも、

E-mailにてお知らせください。よろしくお願ひ致します。



おじやら.ねっと www.ojara.net